



●Answer

沖縄市・コザ山 球陽寺 前住職
帰依 龍照(きえりゅうしょう)

Q 今年、母の二十三回忌を終えました。わが家は母子家庭で、仏壇は長女の私が持っています。弟がいますが、諸事情で今日に至ります。今年私は56歳、独身です。母一人の仏壇で、私もこの先が心配ではあります。が、誰かに仏壇を預けたいとは考えていません。次の二十五回忌に私は58歳。自分が元気なうちに三十三回忌も一緒に終え、仏壇をしまうというのでしょうか? 仏壇をなくしたいと考えています。お墓があるので、私に何かあればそれで十分だと思っています。身の回りの整理について、アドバイスをお願いします。

A 沖縄では、家長制度の名残か、嫡子・長男がトートーメーを持つことを最善とする慣習があります。しかし諸事情があり、家族・親族間で円満に話し合われての結果であれば、カリウンチケー(仮のこ案内)ということで、弟さんではなく、長女のKさんがご供養されるのも、現代では珍しいことではないようです。

2年後の二十五回忌の際、三十三回忌と一緒にご供養すること(併修)(へいしゅう)もある、現状では一つの選択肢であると思います。

「仏壇をなくしたい」とい

うことについては、Kさんがアドバイスを求められる方によって、贊否両論があると思います。最終的には、将来について一番考えられている喪主が判断されることですので、二十五回忌と一緒に三十三回忌を終わらせたいのであれば、それもひとつの方ではないでしょう。

Q 今年、母の二十三回忌を終えました。わが家は母子家庭で、仏壇は長女の私が持っています。弟がいますが、諸事情で今日に至ります。今年私は56歳、独身です。母一人の仏壇で、私もこの先が心配ではあります。が、誰かに仏壇を預けたいとは考えていません。次の二十五回忌に私は58歳。自分が元気なうちに三十三回忌も一緒に終え、仏壇をしまうというのでしょうか?

Q お弔い上げ』『上げ法事』という言葉があります。沖縄では、同じような意味として、『昇天(しようてん)供養』『御天焼香(ウテインスイコー)』などと呼ばれています。いずれも、この法事で故人の法要を終えるという意味の言葉です。

この供養には多くの事例があります。例えば、喪主の方が高齢であることから、元気なうちに三十三回忌までお勤めしたいという場合。喪主が県外に住んでいて、法事のたびに沖縄に帰れないでの、今回ですべての法事を終わらせたいという場合など。ここでも各家庭の諸事情が関係するようですね。

Q お客さまが行う一般焼香と、家族・親族による身内焼香があります。このことから、昇天供養では、お客さまに對しては「三十三回忌を終えた」と言えますが、家族・親族の身内焼香は、三十三回忌の祥月命日(亡くなられた月日)に、行っていたときのことです。もちろん身近な方々、少人数でも問題ありません。

Q 身内の方で行う三十三回忌の際、すでに仏壇がなくなつていても、お墓で焼香する「ハルジュー(墓焼香)」という作法があります。この点、Kさんがおっしゃる「お墓があれば、

Kさんは、おひとりで育ててくれたお母さまに対しても、よく二十五回忌近くの今日まで、お仏壇を敬い、ご供養してあげましたね。三十三回忌もお勤めしてあげたいという「親を思う心」は、それ以上に「子を思う心」として、お母さまも喜ばれています。この心温まるご相談に、私も先立ちました母のことを思はれていました。

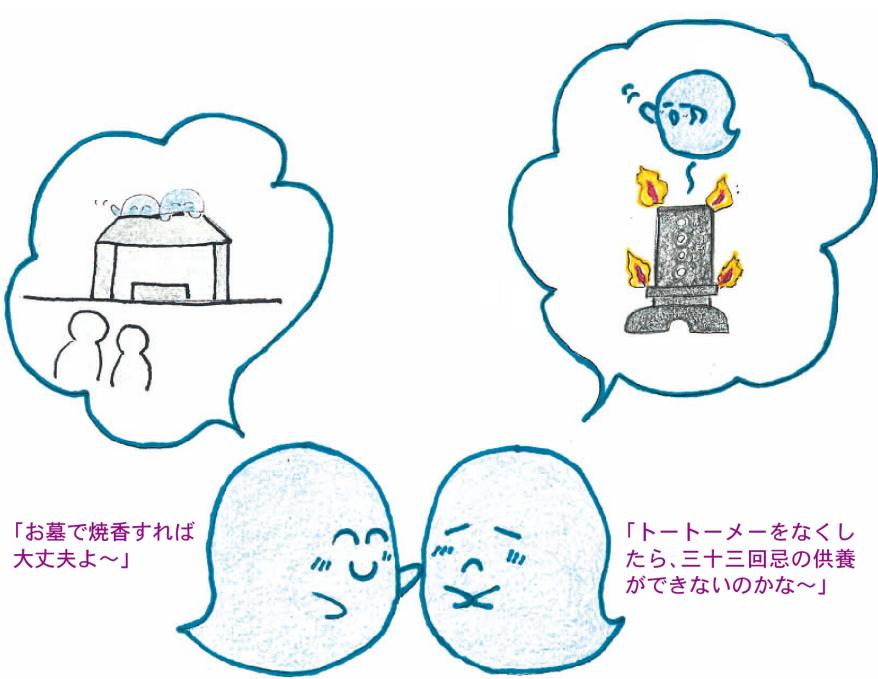


イラスト:帰依ひろ子